

鳴海 完造（なるみ・かんぞう）

1、プロフィール

ロシア文学者。レニングラード東洋学院講師として滞ソ9年。プーシキン研究者として、諸種の異本など収集し、専門家から「書痴」と驚嘆される。

<生没>

1899(明治 32)年8月 10 日 ~ 1974(昭和 49)年 12 月9日

<青森との関わり>

南津軽郡黒石町(現黒石市)に生まれる。黒石小学校、弘前中学校を卒業。弘前大学ロシア語講師。

2、作家解説

生家は黒石の呉服商。黒石小学校を経て、明治 45 年弘前中学校に入学。在学中、ドストエフスキーの小説を読み、ロシア文学に志す。

大正7年東京外国語学校露語科に入学、卒業後の 10 年、早稲田大学露語科に入学。教授には片上伸、原久一郎、学生に湯浅芳子、網野菊らがいた。同大学は1年半で退学。

帰郷後、大正9年、文芸同人誌「胎盤」(大正9~11 年)を、一戸謙三、北岡義端、柴田久次郎らとともに創刊。ロシアの作家、アンドレーエフ、ゴーリキー、クープリンの作品を翻訳発表。

昭和2年、ソ連革命十周年記念祭に招かれ、秋田雨雀に同行してソ連に渡る。宮本百合子はこの同行二人をモデルとして、「道標」の中の登場人物「秋山」「内海」を描いている。11 年まで滞ソ生活9年間、レニングラードの東洋学院の日本語教師として勤めながら、ゴーゴリの小説の初版本、プーシキン関係の書籍百冊などを含め、四千冊の収集を成した。この間、ソ連文化人との交流も貴重であった。

昭和 16 年昭和通商に入社。新京支店に転勤、ハルピンに長期出張、敗戦は上海で迎える。帰国後、24 年弘前大学図書館に勤務、37 年同大学ロシア語講師。39 年東海大学図書館に勤務、45 年同大学ロシア語講師となる。

49 年昭和医大付属病院で逝去。

死後、ロシア文学者池田健太郎は、その貴重な、しかも膨大な原書の収集ぶりを称して、「偉大なる書痴」と称している。